

## 令和5年度 金沢市森づくり市民会議（第2回）

日 時：令和5年11月10日（金） 14時00分～15時30分  
会 場：金沢市役所第二本庁舎2階 2202会議室  
出席委員：飯島委員、大河原委員、河崎委員、澤田委員、橘委員、鏝委員、  
前委員、水越委員、柳井委員、横山委員  
事務局：山森農林水産局長、小杉森林再生課長 ほかに8名

### 【次第】

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 会長選出
- 4 議 題
  - (1) 森と市民をつなぐ活動拠点について
  - (2) 市営造林の運用計画について
- 5 閉 会

### 【議事録】

事務局より説明

|                  |
|------------------|
| 森と市民をつなぐ活動拠点について |
|------------------|

(会長)

森と市民をつなぐ活動拠点について何か意見や質問はないか。

(委員)

今回は、拠点施設内の具体的な配置についての事務局案の提示はないのか。

(事務局)

今回は、拠点機能を活かすための具体的な活動内容についてご意見をいただきたいと思っている。

(委員)

今回は、具体的な活動事例が3つ提案されており、拠点施設に集まって行う活動と野外活動フィールドを使って行う活動が入っているが、両方使うということを確認にすると市民にとって分かりやすいと思う。

(委員)

金沢の森林の状況や建築の状況、金沢市ならではの木の文化などで、施設のエントランスに入った時に目に入るものがあつたらよいと思う。

(委員)

ストーリー性をもった活動の提案はよいと思うが、想定されている交流や支援は、市民が受け取り側になっているものが多い印象である。

森づくり活動への市民の参加の仕方として、自分でワークショップを開催、企画・プロデュースできる、発信できる人を育てる活動も同時にできるとよいと思う。何かやってみたいと思っている学生や市民団体は大勢いるので、アウトプロデュースの支援ができる相談窓口があるとよい。

また、公募で企画提案を募集するなどにより、応募した人が森づくり活動の企画運営側に入ってくるような仕組みがあるとよいと思う。

(委員)

林業とは、森林生態サービスであり多面的機能がある中で、気候変動においても生物多様性が重要視されていることや、クマの出没などは今後ますます頻発すると思われるので、クマの生態などを学び理解した上でクマへの対処方法を考えられる、環境教育の場があればよいと思う。

(委員)

例2の3から5のような、実際に野外に出て伐採の見学や植林の体験をする機会があると、森がどのようにつくられるのかを知ることができるし、実際に森に入れば虫や花をみたりすることで、森の生物多様性を実感することができるので、そのような活動を増やすとよいと思う。

(委員)

ソフト事業については、5つの機能を個別に委託すると森と市民をつなぐ効果が出にくいので、5つの機能は連携できるようにして欲しい。1つのところに委託できれば効果が出やすいと思う。

(委員)

金沢市には古くからの建築物や昔から守ってきた美しい景観がある。

金沢城跡地の様々な木材の活用方法や金沢産材の利用など、どこに行けばこんな素晴らしい建築物や景観を見ることができるのか、例えば東山ならどんな

条例に従い、建築物にどんな木材の活用ができるのかなど、様々な視点から住宅に関する木材の活用方法を発信してもらえると、住宅・建築業界と建築事務所との連携により、木材利用推進の提案ができるのではないかと思います。

(委員)

施設の運営管理については、年間のイベントスケジュールなどの企画提案を受ける公募型での募集をすれば、素晴らしい施設になると思う。

(委員)

この拠点施設が、市内外の保育園から自然体験に来る施設になればよいと思うが、自然との関わり方を知らない先生が多いと思うので、施設整備の充実のみならず、子どもと触れ合いながら自然体験を伝えられる大人の人材育成も重要であると考えます。

(委員)

今の子どもは親も含めとても忙しい。その中で、例2「こども林業塾」のように、林業ができる時期に5回も6回も集まることは難しいのではないかと。

(委員)

最近の若い親世代には、単発のパーティー的なイベントでは心に響かないという感覚の方々もいる。

参加者数は少ないかもしれないが、通年で体験したいという気持ちを持った親子に照準を合わせ、その子を集中的に育てるという考え方もあると思う。

(委員)

これまで、単発イベントと本当の通年活動との間がなかったのが、よい取り組みだと思う。

自分も大学で人材育成のカリキュラムを作っているが、これまでは技術を伝える学びが主流であったが、現代は楽しさを伝えるガイドやコーディネーターの存在が重要であり、そういう人たちが育てばその人たちから次々とアイデアが生み出されるので、自ら企画するのではなく、生み出されるアイデアをサポートするのが活動拠点、プラットフォームの役割であると立ち位置を明確にすると、しっかりとしたガイドの育成ができるのではないかと。

(委員)

林業支援については、森林組合にも山を売りたい買いたいという情報は入っ

てくるが、そもそも所有者が自分の境界を把握していないので売れないというのが1番のネックになっている。

森林マッチングについては、登記やレーザー測量の結果など、行政だからうまく運用できる部分があるのではないかと思う。

全体については、全体をまとめるディレクターが重要になるが、最後は人ありきななので、人選をしっかり進めてほしいと思う。

(会長)

拠点施設整備について、大まかなスケジュールを教えてください。

基本計画には、今後も意見を反映できる余地はあるか。

(事務局)

今年度、基本計画を策定、来年度に設計、再来年度に入れば整備工事に着手し、工事が完了すればその後供用開始というスケジュールを予定している。

(委員)

今回は、拠点施設での活動の提案をされたが、街中でのイベントや活動に拠点施設での活動を絡めて、街から拠点施設に人を呼び込む仕掛けと、拠点施設から街へ人が出ていく仕掛けの両方がなければうまくいかないと思う。

その他、市役所第二本庁舎も木をふんだんに使った建築物なので、そこで定期的に拠点施設の取り組みの何かをやるなど、具体的に企画しておいた方がよいと思う。

(委員)

施設の供用開始が3年後であれば、スタートから一気にではなく、モニターの、デモ的に少しずつ発信し、データベースを作っていくと、人々の関心も少しずつ湧いてくると思われる。

また、少しずつ作り上げていくプロセスを見せていくというのも戦略の1つではないかと思う。

そうすれば、3年後スタートのタイミングで、ガイドがいるというのも強みになるのではないかと思う。

(委員)

決まった地域から木を切り出すのであれば、何年も前から準備しておく必要があるのでは、そのようなことが可能なら是非行ってほしい。

(事務局)

今回の委員の皆様には、ディレクターにどうやって働いてもらうか、どうやって関係団体と連携していくかということのご意見をいただいたと思っているが、事務局は供用開始から5つの機能すべてをまかなえるとは思っていない。

本市の金沢市民芸術村では、運営にあたり、音楽や演劇など複数のディレクターが連携できるように、ディレクター会議というものを持っている。

当拠点施設も将来的には、そのように融合し運営できればよいかと思っているが、来年度はまず、施設整備の機運上昇のために何ができるか、そのためにどのような人や企業が参加できるか人材を発掘したいと思っているので、ご意見をいただきたい。

なお、施設整備の部分については、一旦出来上がったものをその後改修することは難しいので、必要な機能、スペースに関するご意見がある場合は、予算の都合もあるので出来ること出来ないことはあるが、早めにお伝えいただきたい。

事務局より説明

市営造林の運用計画について

(委員)

1カ所当たりの主伐、皆伐面積には条件があるのか。

(事務局)

法律上20ヘクタール以内と決まっているが、市営造林地の面積は2ヘクタール未満が多いので、まとまった団地で一度に20ヘクタール伐採することは考えにくい。

(会長)

防災の観点も踏まえて計画されていることは理解したが、福井県で1日400ミリの雨が降った現場は大変な状況になっていた。2ヘクタール程度であれば問題ないかと思った。

(委員)

今後、主伐を進めていくにあたり価格決定は誰が行うのか。また、AI画像を活用した材の品質評価は、全国的な流れとなっているのか、それはいつ頃からはじまっているのか。

また、今後の価格決定は、AI画像評価によるものとなるのか伺いたい。

(事務局)

価格決定は市がしており、全国的な主流は毎木調査である。ただし、運用計画策定にあたり、全国の都道府県、政令指定都市、中核市の山林が多い自治体にアンケート調査を行ったところ、毎木調査による作業量軽減のため、標準地調査やレーザー測量による森林資源解析データを時点修正したもので価格決定を行う自治体も出始めている状況であった。

毎木調査には膨大な時間と労力を費やすため、今後、本格的に主伐を進めていくためには解決しなければならぬ課題であるため、AI 画像の導入を検討している段階である。

(委員)

経済林と環境林に分け、主伐後の経済林は能力のある林業事業体に再造林を任せるかたちしかないのかなど、何年も前から思っている。

森林組合では、実際に市営造林以外の森林の主伐をすでに行ってきており、所有者に材価を支払い、ほぼ 100%の再造林を行っている。

最初は試行錯誤しながら行っていくしかないのではないかと思う。

(委員)

経済林と環境林に分けるにあたり、環境林として市に管理を委託したいという森林所有者の割合はどのような状況か。

(事務局)

森林経営管理制度に基づく意向調査結果によると、約 7 割から 8 割程度が市に管理してほしいという状況であった。

(委員)

全国的にクマの出没、被害が発生しているが、エサ不足の外、地球温暖化との関係も考えると、今後ますますクマが人里に出没することが予想される。

クマと人との棲み分けをゾーニングする森林整備の実現や、クマの棲みかがどこまで人里に近づいてきているのかの調査をしてほしい。

(事務局)

長期的な視点としては、近年言われている里山をすみかとするアーバンベアを、本来の棲みかである奥山に戻すための研究が必要であると考えおり、引き続き専門家の意見を聞きながら対策に取り組んで参りたい。

(事務局)

主伐後の再造林地に何を植えるのかという部分で、クマのエサとなる木の実のなる木を人里離れた再造林地に植えることで人里に出てこないようにすることができないかなど、専門家の先生の意見を聞きながら研究しているところである。

クマ対策も含め、今後の再造林のあり方について考えていきたい。

(委員)

クマ対策のための特殊伐採費用の補助や、民家の裏にはどんぐりのなる木を植えないなどの対策が必要ではないかと思う。

(委員)

ゾーニングの経済林、経済予備林、防災林、防災予備林はどのような割合か。

(事務局)

現在解析中である。

(委員)

環境林に指定した場合の固定資産税の減額等は考えているのか。

(事務局)

考えていない。

(委員)

経済林と環境林のゾーニングについては、主伐後どうなるか、山の環境が変わるので、その上で、防災軸がどう変化するかはシミュレーションしておく必要がある。伐った後の写真を並べ、どうなるか想定し、またゾーニングしていけばよいと思う。

また、クマ対策についての個人的な意見として、森林整備によってクマの出没を抑えるのは難しいと思う。

(委員)

境界不明対策として、山の航空写真に合成公図を貼り付けた地図は整備されているか。

(事務局)

森林経営管理制度における意向調査のため、令和2年度から3ヶ年で森林位置情報の地図を作成したが、境界を示すものではなく、あくまで大まかな位置情報を示す地図である。